

冬を温かに過せる新案のチヨツキ下

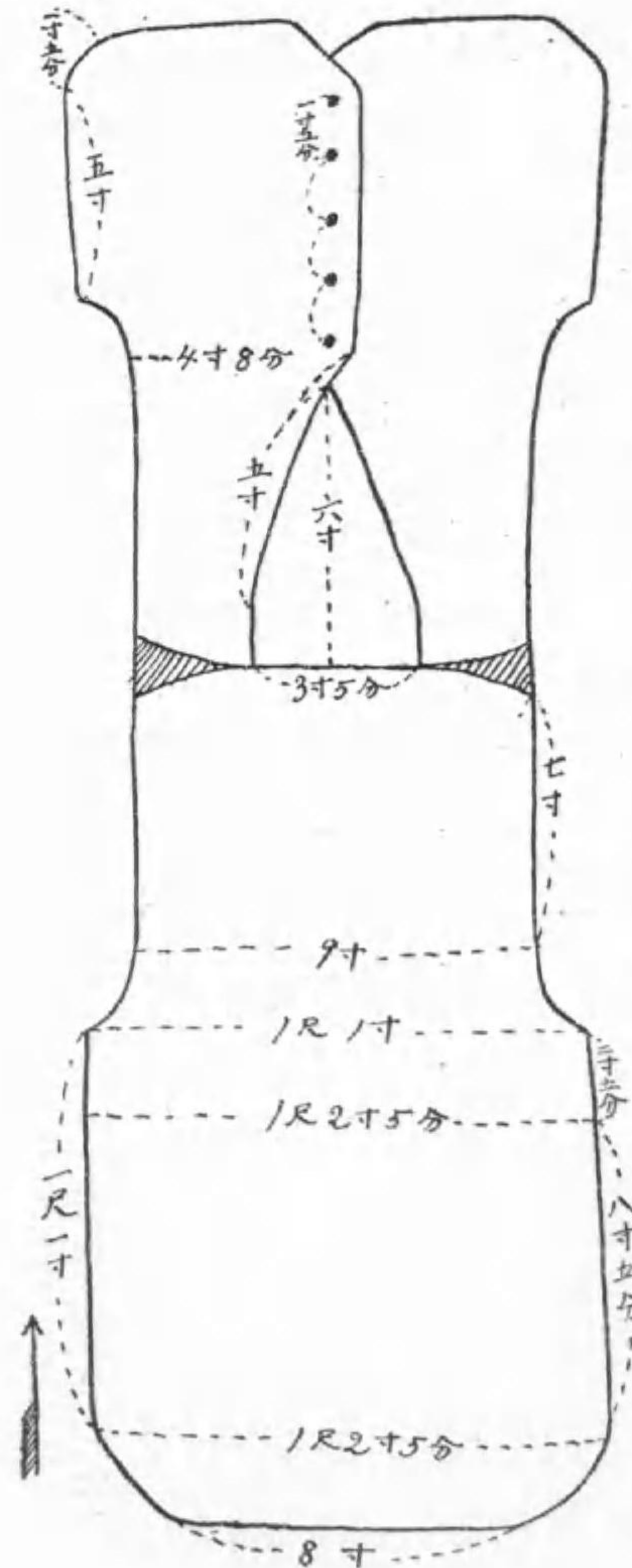
チヨツキの下に着ると腰の邊りまで蔽へて大變温かく、殊に老人に喜ばれると思ひます。



材料 並太毛糸 九オンス位、ボタン 五個。

用具 五號二本針、鈎針。

編み方 全部ガーターで編みます。圖を御覽下さい。矢印の方向に編みます。即ち後裾八寸に相當する目數を作り、兩端で一山毎に一目宛増しながら二寸三分編み、更に一山おきに一目宛二三度増しますと巾一尺二寸五分位になりますから、その儘増減なく裾から八寸五分位になるまで編みます。次に二寸五分の間で後巾一尺一寸に減さねばなりません、これは今まで編んで来た目によつて何目減



らしてよいか分りますから、二寸五分の間で兩端でお減して下さい。こゝで裾から一尺一寸になる筈ですが、更に袖ぐりのため兩端一寸宛(背巾九寸)に減します。これも一寸に相當する目數がわかりますから、そのうち二目残して後を一度にとめ、残つた二目は一山毎に一目宛とめますと、袖ぐりの丸みが恰好よく出來ます。次七寸増減なしに編み肩山の下りを作ります。圖の斜線は肩山の下りを示したので、これは楔編をすれば自然に出來るのです。その方法は、今表を手前にして編んで来た最後の六目(八分位)を編まずに左針に残して編み戻り、その段で又最後の六目を編み残します。(楔編をして戻るとき、必ず最初の一目は編まずに移動だけにします。)次段で又表を手前にして編む時に衿肩のため中央三寸五分とめ、左肩に來た時更に最後のもう六目(都合十二目)を編み残して戻ります。

こゝからは左身だけの仕事になります。これで二度の楔編が出来ましたから全部の目を一山編みます。こゝを肩山の中心として更にもう二度楔編を致します。但し今度は前と反対に最初十二目残して編みかへり、次に六目残して編みかへります。これで楔編が終りましたから一寸増減なしに編み、次五寸の間で圖のやうに衿ぐりを作ります。即ち片身中は四寸八分(内三分重なり)ですからそれに相当するまで衿明端で等分しておふやし下さい。(凡そ一山おきに一目宛増す程度になりませう。)全部増しきつたら次段でボタン穴を作ります。即ち前あきから三目内側の目をふせ、その段はそのまゝ編み終り、次段では前段でふせたところで一日作るのです。これは圖のやうに一寸五分宛間を置いて五個作ります。一方袖付けの側は後身に合せて増して下さい。かうしてボタン穴が五個出来ましたら脇丈は五寸位になつてゐる筈ですから、前裾の丸みを作ります。即ち兩端で一山毎に一目宛一寸五分位の間減して目をとめるのです。これで左前身が出来ましたから、同様に右前身を編み上げます。ボタン穴はいりませんが、巾はやはり四寸八分に致します。脇をとち合せ、袖附、裾、前あき、衿ぐりの縁に短編一段ぐりと編みつけます。これは縁の伸びるのをふせぐためと縁の凹凸をなほして仕上をきれいにするためですから、凸た所はかために、凹んだ所はゆるめにする等加減してお編み下さい。ボタン穴は糸で穴絡りをする丈夫です。下前にボタンをつけるが出来上ります。

スポーツウエーター

軽快な運動着です。毛糸編の運動着は汗になつてもすぐ乾きますから衛生的で、秋から冬にかけて随分重寶です。これは中細ですから、手間が少しかゝりますが、薄手でさつぱりしてゐるので、大變感じがよろこびます。



このガーターとストツキネットの境で一段おきに一目宛減すこと七回、後は増減なし、それから三寸五分程で衿肩明にかゝりますが、この衿廻りのぐるりは四分ほどガーターにしますから、三寸位編みましたら中央の二十目をガーターに變へ、次からその兩端で一目宛ガーターの數を増しながら四分程編んで、中央の二十目をとめてしまひます。こゝから左右別々に編みます。

衿肩廻り衿ぐりの側でガーター一段おきに二目宛とめること二回。(この時も、縁になるガーターの目數は變らないやうに、減らしたらそれだけ反対側で増して行きます。)次に増減なしに三分編みます。これは繰越しです。前身袖ぐりの方の端は、後身に準じて編み進みます。一方衿ぐりの方は、最初の一寸は増減なし、次から往復二

材料 クロセー(中細)五オンス。

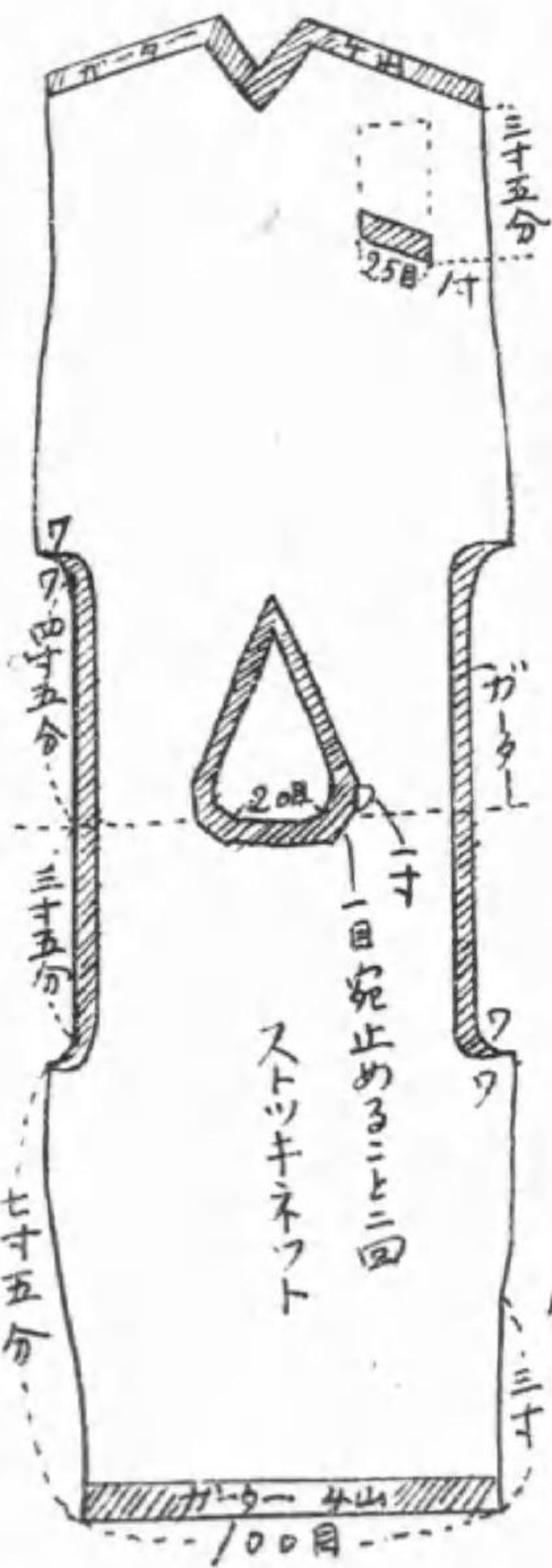
用具 二號編針 トチ針。

編み方 裾口、衿廻り、袖ぐり等の縁はガーターで、地はストツキネットです。

後身 後の裾からはじめます。百日かけてガーター四段、次からストツキネットで増減なしに三寸。次に兩脇の端から一日内で一目宛増します。以後一寸毎に、これと同じ要領で増すこと三回、それから増減せず、脇丈が七寸五分になるまで續けます。こゝから袖ぐりになるので、最初に兩端の七日づゝをとめます。そして兩端の六目をガーターにかへ、

段おきに一目宛増す三回（増目はガーターとストツキネットの境で。）次から一段おきに一目宛七回増します。こゝから左右一緒にして編みます。（胸許のガーターは、段々に両端で減して、一目にしてしまひます）

ポケットは、脇から一寸位の所で、ポケット口として二十五目だけを取つておき、新しく二十五目作つて編み進みます。（編み終つたら、とつておいた目で二寸五分程編んで裏側へ縫ぢつけるのです）裾のガーターに移る所で中央から二つに分けて、前下りを作ります。



前下り脇の端は、四目十度の楔編（即ち中央から編戻つて来る毎に、脇の端の四目を編み残して行くことを十回）一方、中央の方は四目だけガーターにして、ストツキネットとの境で一段に一目づつ減して行くと、形よく山形になります。次に全部の目をガーターで四段編んでとめます。

仕上げはポケットを作り、両脇を縫ぢます。飾りとして、地の色と配合のよい色の毛糸で、寫眞のやうな模様を（或は好みのデザインを）、とち針で一目づつすくつてつけて行きます。

一 毛皮のやうな毛糸の膝掛

ラクダのナチュラル（自然色）とブラウン（茶色）を交ぜ編にして、すつかり毛を立てますと、編んだ物とは見えない立派な膝掛が出来ます。中に薄く真綿を入れて、裏に調和のよい印度サラサをつけますと、大變に引き立つて見えます。温かくて手觸りがよく、心地のよいものです。

材料 ミネルバラクダ二本撚り、シールブラウ
ン二十卷（二卷一オンス）、ナチュラル
十卷、裏地、真綿。

用具 九號二本針。

編み方 ブラウン二本、ナチュラル一本、都合三本で編みます。縁だけをガーターにして、残りは全部ストツキネットにします。九番の針に目數二百を作り、はじめの四段はガーター、次からは、左右兩端七目だけガーター、あとはストツキネット。糸のなくなるまで編みますが、最後の四段は又ガーターにします。編上りは、巾三尺六寸、長さ三尺位のものになる筈です。編み終へましたら、表をブラッシュで毛立てます。（ガーターの部分は裏も毛立てる）。

仕上げをして、正しく形を整へ、毛並を揃へて、裏をつけます。中に真綿を薄く入れて、裏は表の縁から五六分内側にまつりつけます。この時、表の方をよほどつらせ加減に致しませんと後で困ります。



編物の記号

本文中に澤山用ひてある記号は英語を略したものです。一まとめにして次に記しました。

- K** (Knit) 表編。
- O** (Over) 糸を針にかけ、糸を被せる。
- C** (Cover) 目を被せる。
- N** (Narrow) 一目宛二度右針に移してその移した二目を再び一寸左針にひつかけて一緒に表編する。(つまり目の向きをかへて二目一緒に編むこと。)
- P** (Purl) 裏編。
- S** (Slip) 編まずに右針に移す。
- n** (narrow) 二目一緒に表編する。

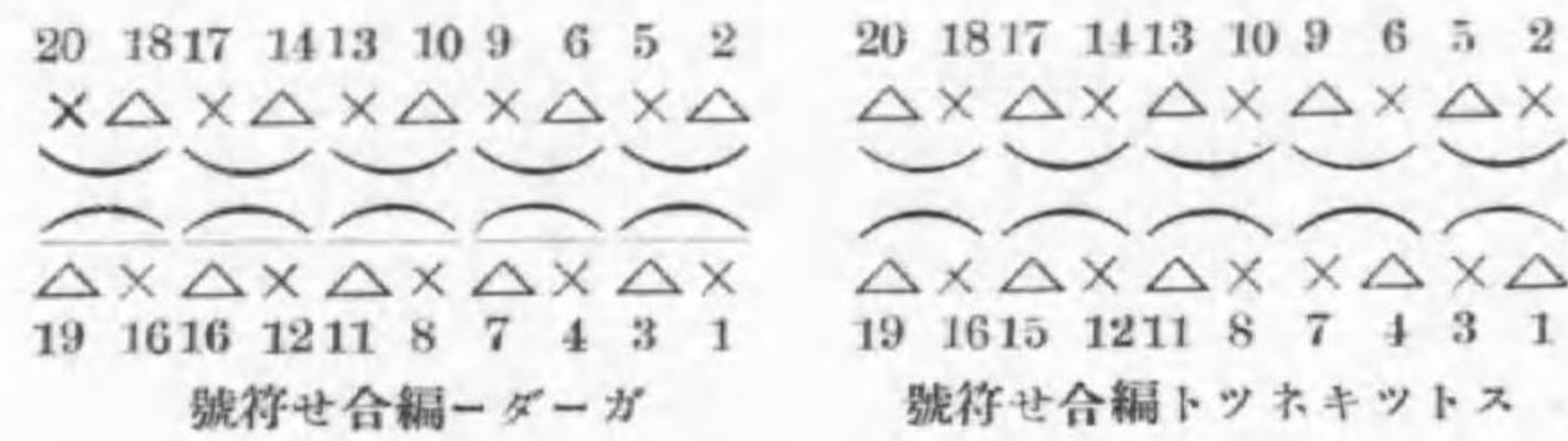
- CnS** (Slip narrow Cover) 一目移して二目一緒に編み移した目をその上に被せる。
- CKS** (Slip narrow Cover) 一目移して二目一緒に編み移した目をその上に被せる。
- NP** (Slip narrow Cover) 一目移して二目一緒に編み移した目をその上に被せる。
- np** (Slip narrow Cover) 一目移して二目一緒に編み移した目をその上に被せる。

時の略(鯨で六分五厘餘) * 星から星の間を繰返すこと。 **V** 下の一目に二目編み入れる。

ガーター (Garter) は平編ともいひ、両面から表編ばかりします。これの一段は往復して出来た一段をいひます。

ストツキネット (stockinette) はメリヤス編ともいひ、表から表編ばかり、裏から裏編ばかりして行きます。

モステツチ (Moss stitch) は苔編ともいひ、一段目は表編一目裏編一目を交互に、次段では前段の表編の上に裏編裏編の上に表編が重なるやうにします。つまり一目宛の市松編です。



ボーシングステツチの仕方

本文中に澤山出て来る編み合せ方で、ガーターやストツキネットはこの方法で編みますと、全くつぎ目が分らないやうにきれいに出来ず、説明に次の符号を用ひますからお覚え下さい。

× 内から外へ針を出す。△ 外から内へ針を入れる。(表編一目の印。裏編一目の印。)

ストツキネットの場合、先づ五目で試みませう。五目宛のストツキネットを作つて針に通したまゝ、表か外側になるやうに重ねます。この時残り糸は向側の右端にあるやうにし、とめ針に通しておきます。上の符号を御覧下さい。いつも一つの目に二度づつ針を入れてゆくのです。1から20までの数字は針の渡る順序です。即ち、先づ手前の針の最初の目を裏編をするやうに内から外へ(内といふのは二本の針の間をいふのです)通して糸を引き(×1)、次に針の下からまはして向ふの針の最初の目を内から外へ(表編のやうに)通してぬき(×2)、また手前の針のさつきの目に歸り、今度はこれを外から内に(表編のやうに)通し、この目を針から外します(△3)。次は今外した目の隣りの目に、内から外へ通し(×4)、次に向ふ側の最初の目にかへり、外から内に(裏編のやうに)針を通してこの目を外します(△5)。次は今の隣の目に内から外へ通し(×6)、手前の目に歸つて外から内へ通してこの目を針から外し(△7)、その隣の目(×8)に移ります。この方法を繰り返すのでございます。符合と合せてよく御覧下さいませ。

ガーターの場合、先づ手前側は裏目が外側に出るやうに、向ふ側は表目が外側に出るやうにして重ねます。ガーターに表裏はないやうですが、針のすぐ下の段で見ると表裏の目の區別があります。残りの糸はやはり向ふ側の右端に、そしてやはり手前の針の最初の目から初めます。針の渡し方は内から外へ通し(×1)次に向ふ側の最初の目を外から内へ通し(△2)、また手前の目に戻り、外から内へ通しこの目を針から外します(△3)。次に今外した目の隣りの目に内から外へ通し(×4)、向ふ側の最初の目に戻り、内から外へ通してこの目を外します(△5)。次にその隣の目に移り(△6)、手前の目に歸つて(×7)目を外すのです。この方法を繰返します。

棒針の基礎編み

1目の作り方

左手の棒針にわなを一つ作り、右手の棒針をその中に通し、左の棒針にかけぬき、右の棒針をその通した目次には、その通した目に針を通して同じ目数になるまで繰返す。



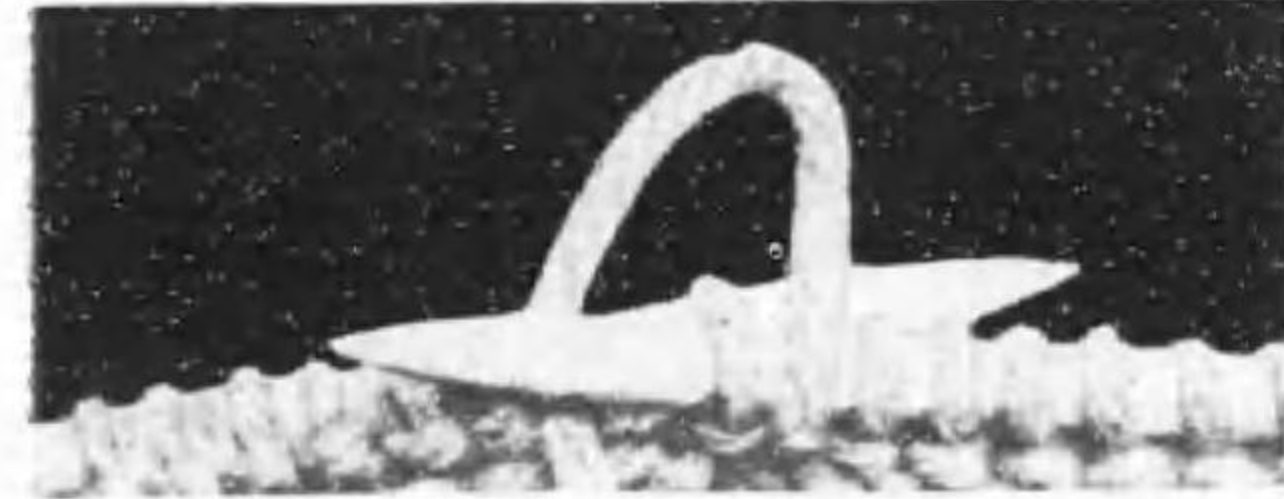
2表編

望みの目数を作り、右から編んでゆく。最初の目に針を通して、糸を下から上へかけてぬく。



3裏編

糸を手前にまわし、右の棒針を向ふから手前にむけて突きこみ、前側で糸を上から下にかけて、逆に針をぬく。



4目のふやし方

最初の目に普通の様に編み、その外に一つ編み、その外に一つ編み、後側に右の針をさし入れて、裏編の場合には、手前の毛糸を右の外側に編む。



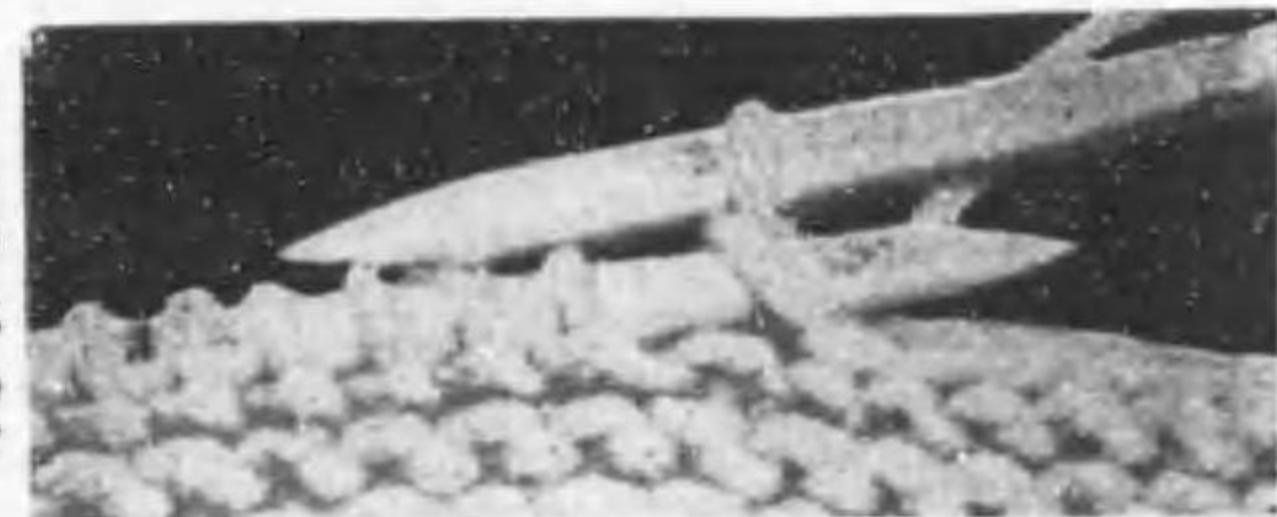
5目のへらし方

目を二つ一度に編む。



6目の止め方

なるべく糸をゆるめにして、一つ表編をして、次に一つ裏編をして、編んだ目を、あとの編んだ目には、ついでかぶらせるやうにして、くぐらせる。最後の二目は、糸を引く。



鉤針の基礎編み

1鎖編

鉤針編の一つ小さいわなを作り、その中に針を通し、糸をかけて手前に引出す。



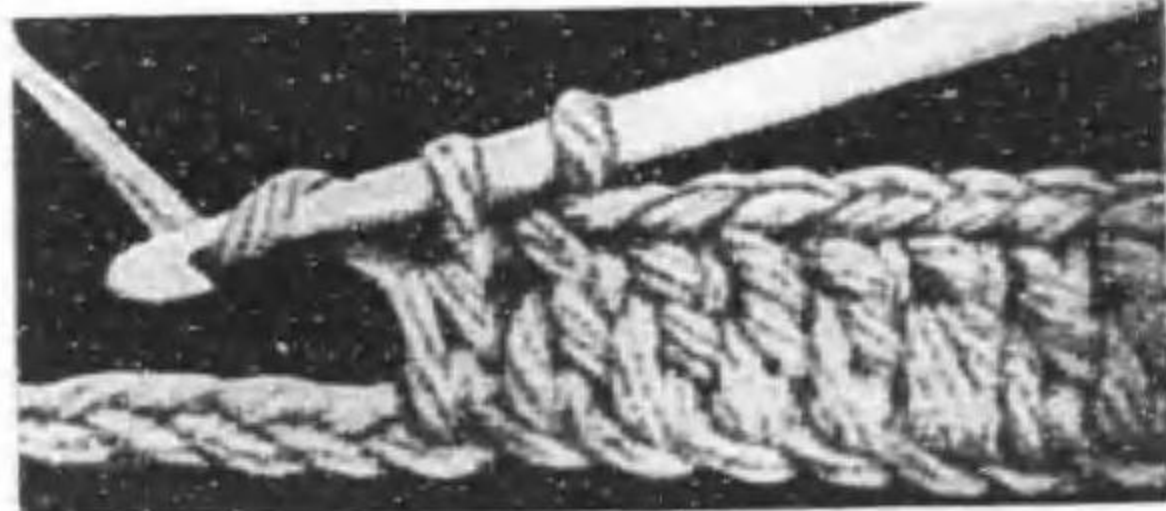
2短編

鎖編を作り、その目に針を入れ、糸を引出し、針にかゝつてゐる二つのわなを針にかけた糸で引ぬく。



3長編

鎖編の目を作り、針に通して、その目の糸を引出し、針にかゝつてゐる二つのわなを針にかけた糸で引ぬく。更に針を糸に通して、針を引出すと、針にかゝつてゐる二つのわなを針にかけた糸で引ぬく。



4長編で目のふやし方

同じ目に二度長編を編み込む。



5同目のへらし方

長編のやうに三つわなが出来たら、一つを引出し、四つを引出し、針にかゝつてゐる二つのわなを針にかけた糸で引ぬく。最初の針にかゝつてゐる二つのわなを針にかけた糸で一度に引ぬく。



6目の止め方

次ぎの目に針を通して、針に糸をかけて一結に引ぬく。



昭和三年三月二十七日印
昭和三年四月一日發

行刷

第二毛糸あみもの百種
定價金一圓五十錢

著者 婦人之友編輯局

東京府北豊島郡高田町神司ヶ谷上リ屋敷二四八番地
發行 羽 仁 吉 一

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷 根 本 力 三

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所 株式會社 秀 英 舎

東京雜司ヶ谷上リ屋敷

婦人之友社

電話牛込 三三三
振替東京 一七七一
〇九八〇番番

不許
複製

發行所

終